

令和3年度 大阪府献血推進審議会

日 時：令和4年2月10日（木）

午後2時から午後4時

場 所：大阪府赤十字会館 4階 401号室

【事務局（平岡）】 それでは皆さんおそろいようですので、お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただいまより大阪府献血推進審議会を開催いたします。私は本日、司会を務めさせていただきます大阪府健康医療部保健医療室医療対策課の平岡でございます。よろしくお願いいたします。

本日の審議会につきましては、WEB会議システムの併用により運営を行っております。ちょっと不慣れなところがあるかもしれませんが、その辺は御勘弁いただけますとありがたいです。

まず初めに、府が開催する会議につきましては、原則、大阪府情報公開条例により公開で開催することとなっております。本日の会議も公開とさせていただきます。御了承のほどよろしくお願いいたします。

傍聴席につきましては、本日、別会場のほうで傍聴席を設けておりますが、本日傍聴人はゼロということになっております。

それでは、開会に当たりまして、健康医療部保健医療室医療対策課長の里村より御挨拶申し上げます。

【事務局（里村）】 大阪府健康医療部保健医療室医療対策課長の里村でございます。大阪府献血推進審議会の開催に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。

委員の先生方におかれましては、日頃から本府の献血推進の取組に御理解、御協力賜りまして厚くお礼申し上げます。また、現在猛威を振るっております新型コロナウイルス感染症対策にも御尽力いただいておりますことを重ねて感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症でございますけれども、感染者が確認されてから既に2年が経過をいたしました。しかし、ただいま第6波の最中ということでございまして、報道等で皆様方もご存じのとおり、計画されておりました軽症中等症の病床の使用率が100%を上回って、計画を上回る病床の運用をお願いせざるを得ないと、こういった非常に厳しい状況となっております。峰を越える大変厳しいコロナ禍ではございますけれども、昨年度は大阪府内でおよそ39万人の皆様から献血への御協力をいただき、年間を通じて安定的に医療機関

へ血液を供給することができました。しかしながら高齢化社会の進展、それから臓器移植等の増加によりまして血液製剤の需要は年々増加している一方で、将来の献血を支える 20 代、それから 30 代の若年層の献血者は年々減少しているというような状況でございまして、血液製剤の需給バランスの確保が課題となっております。

将来にわたり安定的に血液を確保するためには、若年層の方々に献血に御協力していただくことが重要であると考えております。このため本府におきましては、市町村それから赤十字血液センター様と必要な連携をして、若者向けに献血セミナーを実施するなど、若者が献血に触れ合う機会を増やす取組を積極的に行っているところでございます。

その結果、10 代の献血者につきましては、平成 26 年度以降増加傾向ということでございまして、少し明るい兆しが出ているというところでございます。

ただ、昨年度はコロナに伴う休校、それからリモート授業ということで、コロナ禍の影響による対面でのセミナーの開催ができないということもございまして、これからは若年層の方々への啓発につきましては、デジタル機器の活用も必要だというふうに考えております。

引き続き安定した血液製剤の供給を行うため、若年層を中心に献血の役割や重要性を積極的に広報いたしまして、より多くの方々に献血に御協力いただけるよう、さらなる取組が必要と考えておりますので、委員の先生方におかれましては忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます。冒頭の御挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしく願いいたします。

【事務局（平岡）】 では議事に入ります前に、本日の資料を確認させていただきます。委員の皆様には、「次第、令和 3 年度大阪府献血推進審議会委員名簿、大阪府献血推進審議会会議資料、大阪府学生献血推進協議会の活動」を事前に印刷したものを送付しております。その後でデータとしてもお送りさせていただきました。万一資料等がないという方がおられましたら、今ここでお知らせいただけますでしょうか。

また追加資料としまして、直近になってしまいましたが、「配席表」と「大阪府における血液事業の現況」を送信させていただいております。そちらも届いておりますでしょうか。届いてないという場合は、今ここでおっしゃっていただけますでしょうか。大丈夫のようですね。ありがとうございます。

それでは、お手元の委員名簿の五十音順になりますが、本日御出席の委員の先生方を御紹介させていただきます。WEB で御出席いただいておりますので、お名前を読み上げました

ら左下にマイクマークが出てくるとと思いますが、そのマイクをミュートからミュートを解除してオンにさせていただきまして、御発言の際のみオンにして一言お願いできればと思っております。

では、まず最初に、一般財団法人住友病院、病院長の金倉委員でございます。

【金倉委員】 金倉です。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局（平岡）】 毎日新聞社大阪本社、社会部長の麻生委員でございます。

【麻生委員】 毎日新聞の麻生と申します。皆様よろしくお願いいたします。

【事務局（平岡）】 日本放送協会大阪放送局、経営管理センター企画部副部長の井上委員でございます。

【井上委員】 NHKの井上です。よろしくお願いいたします。

【事務局（平岡）】 一般社団法人大阪府薬剤師会、副会長の伊藤委員でございます。

【伊藤委員】 薬剤師会、伊藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局（平岡）】 日本赤十字社大阪府支部、事務局長の大江委員でございます。

【大江委員】 日赤の大江でございます。いつも皆さん大変お世話になっております。よろしくお願いいたします。

【事務局（平岡）】 八尾市献血推進協議会、会長の角田委員でございます。

【角田委員】 八尾市献血推進協議会の角田でございます。よろしくお願いいたします。

【事務局（平岡）】 一般社団法人大阪府病院協会、副会長の木野委員でございます。

【木野委員】 木野でございます。よろしくお願いいたします。

【事務局（平岡）】 大阪府町村長会、監事の杉原委員でございます。

【杉原委員】 杉原です。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局（平岡）】 大阪府赤十字血液センター、所長の谷委員でございます。

【谷委員】 大阪府赤十字血液センターの谷です。皆様には平素よりお世話になっております。本会議もよろしくお願いいたします。

【事務局（平岡）】 堺市献血推進協議会、会長の野村委員でございます。

【野村委員】 堺市の野村です。よろしくお願いいたします。

【事務局（平岡）】 大阪府学生献血推進協議会、会長の本上委員でございます。

【本上委員】 大阪府学生献血推進協議会の本上です。よろしくお願いいたします。

【事務局（平岡）】 なお、生野委員、大成委員、河合委員、光齋委員、寺澤委員、中尾委員、野田委員、平岡委員、宮川委員、吉田委員につきましては、本日、所用のため御欠席

でございます。

続きまして事務局職員ですが、御用意をさせていただきました、お送りしました配席表のとおりですので、紹介については省略させていただきます。

本日は委員 21 名のうち、WEB会議システムを御利用いただきまして 11 名の御出席を賜っております。大変欠席の委員の方が多い中ではございますが、過半数を超えておりますので、本審議会が有効に成立しておりますことを御報告させていただきます。

では、会議に移ります前に、委員の皆様におかれましては、御発言のあるとき以外はマイクをミュートの状態としていただきますようお願いいたします。通信の負荷がかかりまして、もし音声途切れたりということがありましたら、事前に私の携帯番号をお送りしておりますので、それで御連絡いただくことも可能になっております。そのときは少し対応が必要になってくるかと思いますが、御連絡のほどよろしくをお願いいたします。

御発言のあるときはリアクションボタンというのがありますが、その手を挙げるボタンを押していただくなり、あるいは画面で手を挙げていただくと、それで御指名させていただきますと思いますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、これより議事に移らせていただきます。この後の議事進行は金倉会長にお願いしたいと思います。金倉会長、よろしくをお願いいたします。金倉会長、ミュートを解除していただけますでしょうか。

【金倉会長】 会長を務めさせていただきます金倉です。会議の円滑な進行に、皆様方の御協力をよろしくお願いいたします。

それでは議事を進めさせていただきます。議題の 1、血液事業の現状について、まず、大阪府における血液事業の現況について、大阪府赤十字血液センターの谷所長から御説明をお願いします。谷先生よろしくお願いいたします。

【谷委員】 金倉先生、御紹介ありがとうございます。それではスライド表示させていただきます。スライド映っているでしょうか。

【金倉会長】 大丈夫です。

【谷委員】 それでは、大阪府における血液事業の現況ということでお話しさせていただきます。

こちらは、大阪府の血液供給数の推移を示しております。最近では平成 25 年に 1,600 万単位を超え、過去最高の供給量となっております。それ以降は減少いたしましたが、この 4 年ぐらいは横ばいであり、1,500 万単位を推移しております。血小板製剤、赤血球製剤、血

漿製剤についてもここ4年ぐらいは横ばいで比較的安定的に供給できております。

一方、献血者の推移ですけれども、平成3年に56万人以上の献血協力をいただき、昨年度、令和2年度に関しましては39万6,800人ということで、平成3年度と比較すると大幅に減少しております。代わりに400mL献血の推進が中心になっておりますので、血液の総確保量としては変わらない状況です。成分献血の献血者数については、ここ2年増加傾向にあります。今年度は1月現在になりますが、赤血球製剤、血小板製剤につきましては、ほぼ横ばいで進捗しています。

令和2年度の献血者数の内訳の割合ですけれども、400mL献血が62.5%、200mL献血が2.6%であり、400mL献血がメインになっております。一方、成分献血は約35%という状況となっております。

先ほど里村課長から報告もありましたように、若年層の献血離れというのが問題になっているかと思えますけれども、10代の献血者については横ばいか、微増でしたが昨年度は減少いたしました。20代につきましても大きく減少しておりますが、ここ数年では横ばいというふうに見て取れます。

一方その中で問題になってくるのが、30代の献血者数が右肩下がりで減少していることです。これは10代、20代のときに献血しなかった方が、10年、20年後も献血しない傾向もあり、献血が減少していると推測しております。

同様の傾向が40代の献血者にも見られるようになり、40代の献血者も減少してきています。今、若年層の献血に力を入れてはいますが、30代も含め対策を立てるとというのが、喫緊の課題となっております。

次に、男女別に見てみますと、男性は近年ではほぼ横ばいで、女性は400mL献血が主流になり、減少していましたがここ二、三年は増加傾向にあります。

初回の献血者数についてですけど、年々減少しています。平成16年に比べ半分以下に減少しており、少子化の影響も献血人口の減少となっております。また、400mL献血の推進も要因と考えられますが、いかに初回の献血者を増加させるか、今後の課題となっております。

昨年度約39万6,000人の協力をいただきましたが、実人数では約20万人です。1人で2回、3回と協力いただける献血者により、延べ約39万人の献血者数になっています。今後は年1回の献血者、約12万5,000人の方に2回以上の献血協力をいただくことが必要であると考えます。

当センターにおいても若年層の献血者確保として、献血推進プロジェクトとして

「LOVE in Action」を実施していました。現在では今年度から「いこう！献血」を企画して、若い世代を中心に全国展開して献血推進を実施しているところであります。

当センターの主な取組としましては、ここにありますように小学生を対象とした施設見学会とか、毎年おもしろゼミナールという小学生の方と保護者の方に、血液センターのほうに来ていただいて血液事業の実際、採血の現場あるいは供給の現場を見ていただいて血液事業に興味を持っていただくということをしております。昨年、今年度と、新型コロナウイルスの影響により開催できませんでしたが、今年度もそういうことに対応できるよう動画コンテンツを制作して、小学生あるいはその保護者の方に、献血の重要性とか理解していただくように取り組んでいます。

献血セミナーにつきましても、令和元年度は100回以上実施いたしましたが、やはり新型コロナウイルスの影響で休校などの影響により、令和2年度は58回、今年度は50回というふうに実施回数が半減している状況です。

学校献血の実際につきましても、令和元年度は大学で170回、高校、専門学校へは83回ほど行っておりますが、今年度は大学66稼働、高校、専門学校51稼働ということで、バスを出せずに苦労しています。早く新型コロナウイルスの感染拡大が収まってくれればと思います。

そういうことで、皆様の生活も新型コロナウイルスで一変したかと思えますけれども、血液センターとしても採血の仕方、いろいろそれに見合った形で対策を立てております。もちろん献血に来られる場合はマスクを着用していただいて、そして入り口で体温測定、手指消毒していただき、健康状態に不安のある方は御遠慮いただいております。

さらには、一時期に大勢来られたりしたら密になりますので、3密対策として事前予約の推進をしております。予約を取っていただいて少人数で、飲食店ではありませんけれども、たくさんなればなるほど大声で喋ったり、お友達同士喋ったりすることもありますので、少人数で来ていただく、あるいは十分に休憩した後は速やかに会場から御帰宅していただきます。

職員に関しましても毎日体温を測定し、マスクを着用していますし、あと消毒、清掃の徹底も採血環境の感染対策をしております。

さらにはバスにつきましても、常時車内換気ができますようにウィルス除去フィルターをつけまして、常時換気を行って対策を立てているということです。

幸いなことに今のところ、献血会場でクラスターが起こったという報告は聞いておりま

せん。

新型コロナウイルス感染対策以外に、感染者の受入れに関しましてもここにありますように、新型コロナウイルスに感染した人につきましては、治ってから4週間以上経ってないと献血をお断りしています。もう治ったから調子いいということで、4週間以内であればお断りするという事になっていますし、疑わしい症状があつてPCRは陰性やからいいでしょうと言われても、症状出現日から2週間以内、あるいは症状消失から3日以内は献血を万々に備えてお断りしています。

濃厚接触者についても最近自宅待機期間が1週間に短くなりましたけど、今のところ血液センターでは、最終接触日から2週間は献血を御辞退していただいています。輸血を介して新型コロナウイルスが伝播しないように十分注意して採血しております。

ワクチン接種につきましても、副作用の問題から献血で起こったのかワクチンで起こったのか紛らわしい場合がありますので、48時間以内にワクチンを接種された方は献血を御遠慮いただいております。

これは、新型コロナウイルスとの関連で血液の供給状況を見たものですけれども、やはり第2波、第3波とか拡大傾向にあるときは、医療機関も自粛する、あるいは待機手術に踏み切ったりしますので、供給量が感染拡大の最中は減っているということが読み取れるかと思えます。

一方、献血者のほうも同じように多少は減ったりはしているのですけれども、必要量を確保しないといけないので、計画に対して100%近く取れるように頑張っているところであります。

そしてこれは、我々、輸血用血液の確保以外に、グロブリン製剤とかアルブミン製剤のいわゆる血漿分画製剤用の原料血漿についても国内需給100%を目指すことが国から求められております。最近ではグロブリン製剤の需要拡大に伴い、原料血漿の確保というのが年々増えてきました。この5年で約1.3倍ぐらい必要量を確保しないといけないということで、普通の輸血用血液に加えて余分に採らないということで、四苦八苦するという状況であります。

そのために大阪府では、昨年度は1万人ほど多く原料血漿のために採血をしないといけない、1万人近く増やさないといけないという状況になっております。来年度以降も多分、このグロブリン製剤の需要拡大は続くかと思っておりますので、確保対策を行っていきたいと考えております。

最後になりますけれども、先ほど言いましたようにやはり初回献血者が減っていますので、いかに複数回来てくれる、いわゆる優良ドナーさん、優良献血者を増やして血液を安定的に確保していくかというふうを考えております。このラブラッド、Love Bloodを略してラブラッドは、スマホやパソコンで献血を予約したり、あるいは自分の生化学の検査データも見られるようになっていきます。ラブラッド会員を増やして安定的に血液が供給できるように考えております。以上です。

【金倉会長】 谷所長、ありがとうございました。

続きまして、献血推進に関わる大阪府の取組について、事務局から御説明をお願いします。

【事務局（平岡）】 では、準備をさせていただきます。皆さん、画面のほうに資料が出ておりますでしょうか。

【金倉会長】 はい、大丈夫です。

【事務局（平岡）】 では、事務局のほうから御説明させていただきます。

【金倉会長】 それ、パワーポイントになりますか。

【事務局（平岡）】 パワーポイントではないんです。PDFファイルになっております。見づらくて申し訳ないですけれども、御説明はこれで順番にさせていただきます。見づらいということでしたら、お手元に資料を御準備いただいていますとありがたいですけれども、紙のほうでも御覧になってください。よろしく願いいたします。

それでは、大阪府献血推進審議会会議資料という表題の資料で御説明させていただきます。事務局の医療対策課の平岡から御説明いたします。

それでは、この資料の3ページを御覧になってください。令和3年度献血目標という円グラフのページになっております。令和3年度大阪府では、円グラフの真ん中のほうに記載しておりますように総献血者数として39万3,967人、献血血液確保目標量としましては17万3,950リットルを目標として事業を展開しております。今のところ、先ほどもありました血液センターさんの御努力や市町村さん、各市町村の献血推進協議会さんなどの御努力によりまして、何とか献血者数、献血量ともにおおむね目標を達成できるのではないのかな、という見込みでは考えております。

では次に、5ページを御覧ください。献血推進に関わる大阪府の取組をまとめたものです。1番の会議の開催につきまして御説明させていただきます。

1つ目のまるの市町村献血推進担当者会議につきましては、昨年度、今年度と引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面開催ということでさせていただきました。ただ、

やはり来年度につきましては、大阪府や血液センター、市町村、市町村献血推進協議会が連携し、献血者を確保するために必要な情報共有ということが、そのためには本日のようなWEB開催も考えていきたいと考えておりますので、次年度以降はそういった御協力を求めることになるかと思えます。

次に2番の献血推進功労者等の顕彰、こちらにつきましては、長年、献血の推進活動に御協力いただいた個人及び団体の方々への大阪府知事感謝状と、それから厚生労働大臣表彰状、感謝状を贈呈式、伝達式という形で開催していた訳なんですけれども、昨年度に引き続き今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止ということにさせていただきました。こちらと同じように、来年度はぜひ感染防止対策を十分にした上で、開催の方向で考えていきたいと思っております。

次に3番の献血推進月間・キャンペーンにつきましては、各市町村献血推進協議会、各種ボランティア団体などに御協力いただきまして、各地で今年度も街頭キャンペーン等を実施していただきました。6ページは街頭広報実施状況、7ページは機関紙等広報の掲載実施状況ということで、7月の愛の血液助け合い運動月間について各市町村のまとめたものとして表にしております。

なお、こちらにつきましても昨年度に引き続きなんですけど、街頭での物品の配布というのが難しい状況になっておりまして、その中でも様々な感染対策を講じていただき、工夫をされて実施していただいているという状況を御報告いただいております。

また、現在取りまとめ中の12月の大阪府献血推進月間につきましては、資料としては入られておりませんが、この中でも12月街頭キャンペーン等を御協力いただいているということが御報告されております。

5ページに戻りまして、4番の広報活動に移ります。こちらの広報活動ですけれども、こちらページが飛びますけれども、8ページのfacebookについて説明させていただいております。こちらが具体的にfacebookに掲載させていただいた内容です。これは12月の大阪府献血推進月間に大阪府のfacebookにて啓発を行った内容になっております。

次の9ページにつきましては、Twitterへの掲載になっております。9月にはO型の血液の確保が大変厳しい状況になったということで、血液センターさんから要請を受けまして、もずやんと、これはけんけつのキャラクターになりますか。大阪府のTwitterで献血への協力を呼びかけたものです。

その下には12月ですね。これは月間に合わせまして、もずやんがもず語と言うんですか、

それを使いまして献血協力を呼びかけたものになっております。

Twitter の次のページになるんですけども、こちらは情報誌のぴあのMOOK本というのがあるんですけども、例年ですと冬ぴあと言いまして、季節的に冬の季刊誌というのが出ているんですが、今年はそれがありませんで、こういった特集本というものの中に献血協力の広告を入れていただいた例になっております。

こちらにつきましては季節本というわけではないので、季節本に比べると少し発行部数も若干違っているんですけども、期間が長く販売されているということですので、長いこと見ていただけるのかなというところです。

次のページの、同じようにぴあなんですけれども、ぴあ関西版WEB版というのがあります。これはホームページのほうにバナーという形で、画面を見ていると、この1画面目と2画面目というのが繰り返し出てくるようになっております。クリックすると、大阪府のページに飛ぶような形になっております。

その他広報活動としましては大阪府の広報紙、府政だよりの12月号に、それから大阪府のホームページにも広報を載せております。

5ページに戻っておりますが、5番の若年層の献血推進について御説明いたします。またページを飛びましてあちこち行って申し訳ないんですけども、12ページを御覧ください。若年層の献血推進のページになります。先ほどからもお話がありましたように、全国的に若年層の献血者数が減少しております。10代から30代の全国における献血者数なんですけれども、令和2年度で174万人でございました。

12年前と比較、中途半端に12年前、一回りということになるんですけども、平成20年度は約285万人でした。そちらから比べますと大きく減少していることが分かります。およそ約61%と減少しております。大阪府内におきましても、全国と同様に減少傾向、同じような傾向となっております。平成20年度の20万人から令和2年度では14万人と、約7割に減少しています。

先ほどもお話にありました、大阪府では10代につきましては、20代もなんですけれども平成26年以降、少しずつですが増加傾向にありました。ただ、先ほど同じことの繰り返しで申し訳ないんですけども、令和2年度はどうしてもコロナの影響というのがありますので、人数としましては若干少し減ってはいるんですけども、この辺のところは工夫が要るのかなというふうにご考えております。

ただ、下のほうの括弧書きのところです。年代別の献血者数のところを御覧いただきます

と、令和3年度、これは令和元年度、2年度、3年度を比較したものなんですけれども、各年代、10代、20代、30代の各年代の献血者数の下の括弧書きのところにつきましては、4月から12月の9か月間を比較したのになっております。それを見ますと、今年度はいろいろ皆さんの努力になるんだと思いますけれども、10代、20代では今のところ昨年度の同月間よりも少し多い人数で推移しておりますので、あと1月、2月、3月、もう少しありますけれども若干また数を戻してくるのではないかと。ただ、2月、3月は学校もお休みになって受験のシーズンでもありますので、同じように増えるかと言いますとそこはなかなか難しいところではあるんですけれども、そういったデータとしては少し多くなっているという結果が出ております。

では、こちらにつきましては以上で、続きまして15ページのほうを御覧ください。

その前にこの通知の御説明をさせていただきます。事務連絡として出している分ですけれども、国は総献血者数に占める年代別の構成比率をなるべく均一にして、将来にわたって安定的に献血者を確保するために、これは平成29年度からなんですけれども、都道府県ごとに年代別の目標献血者数を通知で示したものです。令和3年度の目標を定めた通知で、令和3年3月31日に出されたものです。それが次のページの別添としてつけておりますが、都道府県別、年代別の人数になっております。令和3年度でするのでこの中で大阪府の数字が目標として、一番右のほう、小さくて申し訳ないです。39万3,967人という目標値になっております。

では、次のページに移りたいと思います。15ページは若年層の献血推進の取組の1つとしまして、大阪府では献血啓発作品、ポスター原画募集事業というのを実施しています。この事業につきましては、今年度で12年目になります。府内の15歳から28歳の若年層を対象としまして、同年代の若者に向けて献血の重要性、献血によって救われる命の大切さを訴えてもらうポスター原画を募集しているものです。

今年度、令和3年度は昨年度が227作品だったんですけれども、それを大幅に上回る336作品の応募がありました。このコロナ禍にあっても、皆さんが応募してくださっているということになります。

選考の結果ですね、こちらに挙げていますのが今年度の最優秀賞になります。選考の結果を15ページから17ページに掲載しておりますが、この最優秀作品が1作品、そして次のページに優秀賞の6作品、それから入賞が8作品となっております。こちらの優秀作品、最優秀賞と優秀賞それから入賞の、この合計15作品につきましては、昨年12月に府庁の本

館、正面玄関内に展示をしまして御覧になっていただけるようにしました。

次のページを御覧いただきますと、こちらは昨年度の優秀作品なんですけれども、そういった優秀作品を利用して、今後はカレンダーやしおりといった啓発物品の作成予定をしております。カレンダーにつきましては府内の高校、大学等に配布する予定です。また、しおりは15全ての優秀作品を用いて作成をしまして、高校新1年生に配布する予定をしております。

では次に、19 ページを御覧ください。献血セミナーについて御説明いたします。献血セミナーにつきましては、学校のほうに血液センターの職員の方々が訪問されまして、献血や輸血について分かりやすく説明し、生徒さんにその意義や理解を深めてもらう出前講座です。目的としましては、生徒さんに日赤の活動や献血、輸血の現状等を紹介し、自分たちも献血することを通じて人の命を救うことに参加できる、そういうことに気づいていただき献血に御協力いただくきっかけとすることです。献血セミナーの内容につきましてはスライドによる説明、それから映像の鑑賞が中心になりますが、その時間はその学校のスケジュールに合わせて調整できる形となっております。

それでは本府における、高校生を対象とした献血セミナーの実施状況につきまして、御説明をいたします。大阪府では教育庁と連携をしまして、府立学校校長連絡会などにおいて、校長先生方に献血セミナーの周知を行い、公立と私立の各高校に献血セミナーに関する資料の送付を行っております。また、資料を送付するだけでなく、先ほど御説明しましたポスター原画募集事業などで、高校を訪問する際には個別に御説明を行っております。

ただやはり、新型コロナウイルス感染拡大防止の関係もありまして、令和2年度、令和3年度につきましては、学校の校長先生方に周知を行うということもなかなかできない状況にありまして、先ほどからの話もありますように休校が続いたりですとか、あるいはリモート授業とか、そういったこともなされるようになってきておりますので、学校への協力というのが私どももなかなか難しいなということは感じております。

実際にこの表にも書いてありますが、平成29年度21回、平成30年度23回、令和元年度40回と血液センターさんの御努力のおかげで、教育庁のほうにも御協力いただいたおかげで40回とここまで増えてきたんですけれども、残念ながら昨年度は学校に行けないという状況もありまして18回、今年度も聞いております数字としましては1月末現在で19回、予定していた学校も急にやりやめですとか、今回も第6波の影響でやりやめになったという学校もあったと聞いております。

来年度も引き続き、若年層の方々にこういった献血というのに協力していただく必要性というのを周知して分かっていただく、理解して御協力いただくということが大事ですので、実施回数を増加する、どのように増加できるのかといったことも含めて学校へのアプローチ、それから教育庁の協力もいただきたいと考えておりますので、またその辺のところは御協力をお願いしたいと考えております。

では次に、20 ページなんですけれども、今後の方針ということで、若年層に向けた献血推進を挙げております。こちらも引き続き血液センターさんと連携を取りまして、(1) から(5)に記載しましたような啓発を継続して行って参ります。

そのほかで、先ほどのポスター原画募集の昨年度の最優秀賞と優秀賞の作品につきましては、令和2年度の年度末になるんですけれども、令和3年3月に人通りが多い近鉄の大阪難波駅と大阪上本町駅のデジタルサイネージという、最近よく柱の周りにデジタル画面がありましてそこでいろんな映像が流れるんですが、そこに映像として出していただくということで、1か月間そのデジタルサイネージに映し出されるということを実施いたしました。今年度も最優秀作品や優秀作品につきまして、デジタルサイネージに映像が出るように計画中で、相談させていただいている状況でございます。

以上、私からの説明は終わらせていただきます。ありがとうございました。

【金倉会長】 ありがとうございます。続きまして、学生による献血推進についてお伺いしたいと思います。本上委員、大阪府学生献血推進協議会ではどのような活動を行っているのか、御説明をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

【本上委員】 はい。では、スライド表示させていただきます。ちょっとお待ちください。共有できているでしょうか。

【金倉会長】 はい、大丈夫です。

【本上委員】 はい。では、大阪府学生献血推進協議会の活動報告について御説明させていただきます。

まず、大阪府学生献血推進協議会について大まかな概要を説明していきます。年々若年層の献血者数が減少傾向にある中、献血者数を増加させることを方針に活動しています。3大学の奉仕団、近畿大学赤十字奉仕団、大阪産業大学学生赤十字奉仕団、玉手山学生赤十字奉仕団の3大学と1大学、大阪経済大学のボランティアクラブで構成されています。現在218名の方が加盟しています。主な活動としては、献血の呼びかけやセミナー役員会などが挙げられます。後ほど詳しく説明します。

では、具体的な今年度の活動内容を御紹介します。まず始めに献血のキャンペーンです。こちらは町に出て献血の呼びかけをする活動です。HEP FIVE前、京橋駅前広場、難波グリーンガーデンなどで行っています。本年度は5回ほど実施しました。七夕やクリスマスなど行事や季節に合わせて実施しています。キャンペーンの前にはこのように、先ほど御紹介しました加盟大学、近畿大学とか大阪産業大学に告知ポスターを掲示しています。

実際の活動の様子です。できるだけ人の目に触れるように、そろいのはっぴやオリジナルの小看板などを作成して呼びかけています。

次にセレッソ献血です。こちらも献血の呼びかけをする活動です。セレッソ大阪が試合をする日に合わせてスタジアムの前で実施します。本年度は2回行いました。また、資料に載せることできなかつたんですけど、学内献血という、学推の加盟大学内で献血の呼びかけをする活動も今年度2回ほど行いました。

次に新人研修会です。学生献血推進協議会は大阪だけでなく全国に展開しているのですが、その中の近畿2府4県の学推が集合し、学推というのは学生献血推進協議会の略なんですけど、学推が集合して行う活動です。目的は学推に入って間もない新入生に献血の理解を深めていただくことや、各学推間の交流などです。例年は近畿ブロックの赤十字センターに集まり実施していましたが、今年は密を避けてオンラインで実施しました。

次は東方紅楼夢です。東方プロジェクトというゲームの同人イベントに参加して献血に関するアンケートや呼びかけ活動を実施しました。左下の画像のような学推の看板を作成したり、アンケートに御記入いただいた方に、SNSをやっているんですけど、そのSNSのフォローをお願いするなどして団体の知名度の普及にも尽力しました。

次は献血の勉強会です。大阪学推を構成する大学のボランティアメンバー、先ほど218名いると言ったんですけど、これは献血の担当以外を合わせた数字で、その献血担当以外の方も含めて強制で献血セミナーを実施するという活動です。内容は我々学推の活動の内容、または何歳から献血できるのか、どういった人が逆に献血することができないのかというのをまとめた献血基準と間隔だったり、400ミリリットルを献血する理由などのパワーポイントを作成して発表しました。

次は献血のセミナーです。羽衣国際大学の大学生を対象にセミナーを開講しました。こちらは大学内で赤十字のボランティアを学ぶ授業があるようなので、その1つとして学推を紹介しました。当日は学生向けに発表するという事だったので、できるだけ献血の堅いイメージを払拭できるように、アニメの画像だったりイラストをふんだんに使ってパワーポ

イントを工夫しました。

羽衣国際大学以外にも、大学のボランティアクラブや高校のボランティアクラブの生徒を対象にオンラインでセミナーを開講しました。右上の画像のように当日の Zoom 参加 QR コードやセミナー内容を記載したチラシを作成して大学や高校に電話をして、チラシをファクスで送信し受講者を募りました。セミナーの内容は、献血の勉強会と同じ内容です。

次に広報活動について御紹介します。学推は、広報の一端として Twitter や Instagram などの SNS に取り組んでいます。またキャンペーン前などには FM 大阪でラジオ収録を行い、活動予告や担当の生の声による啓発の運動を行っています。

SNS では画像のようにキャンペーンの事前告知を行います。また、毎週 1 回献血バスの運行予定も投稿しています。バスの予定日や場所なんかはセンターのホームページから引用しています。

近畿ブロック単位で学推献血月間という企画を行っています。こちらは、まだ献血をしたことがない学推のメンバーやその友人を献血に誘い、献血をしている様子を SNS に投稿するという企画です。投稿数イコール献血を友人に勧めることができた数なので、近畿 2 府 4 県で投稿数を競い合って 1 週間に 1 回結果を共有するなどして、お互いに高め合いながら活動に取り組めるように工夫しています。こちらが実際の献血月間の SNS の投稿です。

最後に、全国けんけつさんぽです。先ほど学推は 47 都道府県に展開しているとお話ししましたが、こちらは赤十字のマスコットキャラクターである、けんけつちゃんが全国の献血ルームを散歩しながら紹介するという企画です。実際に投稿した大阪学推のけんけつさんぽを、ちょっと見ていただきたいと思います。献血ルームはあべの献血ルームです。少々お待ちください。Twitter の画面が共有されてますでしょうか。画面、共有できていますか、Twitter の。

【金倉会長】 はい、大丈夫です。

【本上委員】 大丈夫ですか、はい。音も聞こえますか。

【金倉会長】 聞こえます。

【本上委員】 はい、ありがとうございます。

(Twitter 投稿の全国けんけつさんぽの映像を再生する。)

【本上委員】 という感じで、全国けんけつさんぽという企画でルームの紹介を投稿していました。以上で学推の活動の報告を終わります。ありがとうございました。

【金倉会長】 ありがとうございます。なかなかよくできた画像でしたね。音楽もすば

らしい。

【本上委員】 ありがとうございます。

【金倉会長】 行きたくなる感じがしました。若年層の啓発には、学生さんによる活発な活動が非常に重要であると思います。今後とも引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、議題1、血液事業の現状についてにつきまして、御意見、御質問ございませんでしょうか。ございませしたら、挙手もしくは手挙げボタンを押していただければと思ひますが、いかがでしょうか。どうぞ、角田委員お願ひいたします。

【角田委員】 すばらしい学生のボランティアということで、献血の取組をいただいて、びっくりするのと同時にこれからもしっかりと後輩につないでいただきたいという気持ちを持ちました。

私たちは、八尾市の献血推進協議会ではいろんな活動をしておりますが、特に小さい子供たちの間に献血のすばらしさ、ボランティアのすばらしさということで、親子で考える献血のお話をさせていただいたり、または次年度になります八尾市赤十字奉仕団の助成金を活用しまして、このようなファイル（手元で掲示）を皆さんに配らせていただきたい。中学生を対象にお渡しをしたいというふうを考えております。できる限り、ボランティアとか献血について関心を持つためには、小さいときのほうがよりいいのではないかとというふうに常に考えておりますので、子供たちを連れていくような環境を行事の中で取り入れております。

それからもう一つは、嬉しいことにコロナによって血液、献血が少なくなるのではないかと、八尾市の場合非常に心配しておりました。そうしましたところが、以前よりも50人、60人、70人と人数が逆に増えて参りまして、御協力をちょうだいしております。それはなぜかと言ひましたら、もちろん行政や血液センターの先生方のお力によるものでございませけれども、地域の商工会議所の会長さんが筆頭になってお部屋を、大型店を貸してくれまして、そこで血液を採らせていただくような形を取りました。そうしましたら、親子連れで献血の場を見ながら、これは何をしているんだということを担当者に聞きまして、これは皆さん交通事故なんかのときに使うんだよということで、血液の重要性について親子に話しかける、そういう場面も多々ございませ。

嬉しいことにそういうことで、八尾市の場合には数が増えてきたという御報告ができることを頼もしく思っております。また、八尾市の献血ということで、こういう冊子（手元で掲示）も作りまして、今までどんなふうに皆さんが協力してくれたか、八尾市の皆さんのお

力によるものだというような事柄で献血のすばらしさ、これからも広げていただきたいというようなそういう活動もさせていただいております。これからもどうぞ御指導くださいますようによろしく願いいたします。

【金倉会長】 角田委員どうもありがとうございました。活発な活動をお教えいただきまして、本当にありがとうございます。引き続き今後ともよろしく願いいたします。

ほかにいかがでしょうか。本上委員、何かしゃべり足りないこと、何か御意見があればよろしいですか。

【本上委員】 しゃべり足りないこと。特に、すみません。

【金倉会長】 はい、分かりました。

【事務局（平岡）】 大江局長が手挙げされてらっしゃいます。

【金倉会長】 すみません。大江委員お願いします。

【大江委員】 ありがとうございます。先ほど来のお話、また学推の皆様の本当に積極的な活動、そしてまた角田先生のほうからも、本当に御熱心な活動で御協力いただいているというお話を伺いまして、本当に感動しております、このような方々のお力添えがあってこの血液需要に応えられているんだなということ、本当につくづく痛感した次第でございます。本当にありがとうございます。

実際にはこの1月から2月にかけて、コロナの感染症が非常に深刻になっているものですから、実際には大口の献血バスのキャンセルが非常に多く出てきているという状況でございます、しかも出勤されている方々も人数が少ない中でやっていけないといけないうことで、献血になかなか行けないと、出せないというような事情があるので、これは本当にやむを得ないことだというふうに思っているんですけども、なかなか厳しい状況でございますので、これはもう多くの方々に献血ルームのほうへ足を運んでいただくほかないのかなというふうには思っているところでございます。

そうした中で何とか、先ほど血液センターのほうから報告のありましたように、数字としては何とか保ってきているということでございますけれども、本当に先ほど来のお話によりまして、何とか保っているというのもまた実情でございますので、ぜひとも引き続きコロナ禍での献血ということで、いろいろと苦勞もしているというのが実態でございますので、委員の皆様、また先生方にぜひ引き続き御協力をいただきたいというふうに心からお願いを申し上げます。本当にいつもお世話になりまして、ありがとうございます。以上でございます。

【金倉会長】 はい、事務局長さんありがとうございました。今後ともよろしくお願ひしたいと思ひました。

ほかにどなたか御意見ございますでしょうか。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。谷所長、何かございますか。よろしいですか。

【谷委員】 すみません。皆様の御協力いただき、何とかやっているような状況ですけども、現在、医療機関のほうも待機手術あるいはクラスターが出たりして、血液の使用量が減少していることもありますので、何とかそのバランスで保っているような状況ですけど、落ち着いたら反動で医療機関のほうも血液使う機会が多くなると思ひますので、今在庫が安定しているからと安心しないで、当センターとしては献血者の確保、安定供給に向けて頑張りたいと思ひますので、引き続き皆様の御協力と御理解いただけたらありがたいと思ひます。今後ともよろしくお願ひします。

【金倉会長】 はい、ありがとうございます。

ほかによろしいでしょうか。また、もしありましたら後ほどお願ひしたいと思ひます。

それでは次は、事務局から法律に基づき都道府県として毎年作成しなければならない、令和4年度の大阪府の献血推進案について説明をいただけますでしょうか。

【事務局（平岡）】 はい、では引き続き事務局のほうから御説明いたします。

それでは、令和4年度大阪府献血推進計画（案）について御説明いたします。ページにつきましては21ページから、今画面でも出させていただきますが、令和4年度の大阪府献血推進計画が21ページからとなっております。

この計画につきましては、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律、第10条第5項によりまして都道府県が毎年度作成することとされておりまして、知事が本日付で大阪府献血推進審議会に諮問するものであります。

大阪府の推進計画につきましては厚生労働省の令和4年度の献血の推進に関する計画案というのが出ておりますが、それを基に作成させていただいておりまして、国の計画案で追加修正等をされた箇所を中心に変更しております。

こちらは本文のほうになりますが、新旧対照表のほうまでページを進めていきまして、新旧対照表33ページですね。こちらを御覧いただきまして、対照表を中心に御説明をさせていただきます。左の欄が今回御審議いただく令和4年度の計画案、右の欄が現行の令和3年度の計画となっております。修正箇所につきましては下線を引いております。

それではこれから、この新旧対照表を用いまして主な変更点の説明をさせていただきます

すので、適宜 25 ページから 32 ページの本文を御確認いただきながらお聞きいただければと思います。

では 33 ページ、第 2 の計画目標の、献血者数、献血血液量から説明をさせていただきます。こちらにつきましては例年同様、国の示す目標量に基づきまして、血液センターと大阪府で協議、調整を行い定めております。

①なんですけれども、計画目標の 1、献血者数、献血血液量の、①の献血者数の表になります。この①の表に記載しておりますとおり、令和 4 年度の目標としましては、献血者数は合計 39 万 409 人、献血血液確保目標量につきましては合計が 17 万 4,499 リットルで、それぞれ前年度目標と比較しまして、人数のほうは 3,558 人の減少、量のほうは 549 リットルの増加となっております。

次に③を御覧ください。原料血漿確保目標量は 9 万 2,244 リットル、輸血用血液確保目標量は 8 万 2,255 リットル、それぞれの前年度目標と比べますと 1,846 リットルの増加と、それから 1,297 リットルの減少となっております。これらの献血目標の詳細につきましては、資料 32 ページの令和 4 年度献血目標に整理しておりますので参考にしていただきたいと思っております。こちらに数値がまとめられております。

では次に、34 ページのほうに移ります。34 ページの 2 番、年代別献血者数ですね。こちらにつきましても、大阪府と血液センターで協議、調整しました数値を入れております。合計数が昨年度よりも減少している中で、20 代と 30 代の目標数、献血者数につきましては変わらずですが、10 代と 40 代以上で人数を減少しております。

では、続きましてその下、第 3 の 3、さらに (2) の献血推進の環境整備①の大阪府血液センターの項目を御覧ください。こちらにつきましては次のページ、35 ページに移りまして、6) としまして、「新興・再興感染症のまん延下の状況であっても、献血者が安心して献血できるよう感染症対策を十分に行うとともに、献血者への対策についての情報発信を適切に行う。」、こういった一文を追加しております。こちらにつきましても国の推進計画に合わせるために追加したものになります。

内容的には先ほど谷所長のほうから御発言がありましたように、血液センターでは既に行ってくださっている部分になるかと思っておりますので、問題なくいけるのではないかと思います。

今年度につきましては、国の計画案につきまして修正箇所がそれほどなかったものから、大阪府の計画につきましても国の計画に合わせた形で修正箇所を追加した部分がこ

の箇所になります。

簡単ではございますが、計画案の主な変更点について説明させていただきました。以上でございます。

【金倉会長】 はい、ありがとうございます。ただいま事務局から令和4年度大阪府献血推進計画の案が御説明ございましたけど、御意見、御質問等ございますでしょうか。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

御意見がないようでしたら、それでは令和4年度の大阪府献血推進計画を原案のとおりで御了承いただけますでしょうか。

(異議の声なし。)

【金倉会長】 はい、ありがとうございます。皆様、御了承いただいたようでございます。それでは、今御了承いただきました献血推進計画より答申することとしたいと思います。事務局から何かございますでしょうか。

【事務局（平岡）】 大阪府としましては、この計画を献血事業の指針としております。目標の献血者数の安定確保、また安全な血液の確保ができますよう関係機関と協力しまして、連携しまして努力して参りたいと存じます。委員の皆様におかれましても、引き続き献血事業に御協力いただきますようお願いいたします。また、この計画につきましては本年3月に公表させていただく予定となっております。以上です。

【金倉会長】 ありがとうございます。それでは続きまして議題の3番、その他になりますが、事務局から何かございますでしょうか。

【事務局（平岡）】 そうですね。昨年度、今年度と、コロナ対策がとても長引いている状況ではあるんですけども、昨年度はこの会議につきまして書面ということで開催させていただきましたので、今年度はぜひ皆様の御意見もお伺いしながらということで、WEB会議という形で開催させていただきました。ただ、コロナと言いましても、それに対する対策を考えていきまして、来年度以降につきましては献血者数、献血してくださる皆様の確保ということを念頭に、こういった形が安全に行えるのかといった工夫も考えながら皆様と協力していきたいなと思っております。以上です。

【金倉会長】 はい、ありがとうございます。いかがでしょうか。何か、皆様御意見等ございましたらお伺いしたいと思います。よろしいでしょうか。

もし、ないようでしたら以上で議題についての審議は全て終了したということになります。本日はどうもありがとうございました。事務局へお返しいたします。

【事務局（平岡）】 はい。議長、進行のほう、どうもありがとうございました。委員の皆様もありがとうございました。

これもちまして大阪府献血推進審議会を終了させていただきます。本日は御多忙にもかかわらず御出席いただきまして誠にありがとうございました。本日の議事録につきましては、後日事務局で案を作成しまして委員の皆様にご確認をいただきます。

なお、議事録につきましては府の情報公開条例の規定により全てホームページにおいて公開させていただきますので、御了承願います。本日はありがとうございました。

— 了 —